

岡病防第7号
平成30年5月2日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

平成30年度病虫害発生予報第2号

平成30年5月2日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	やや多	モモ	ナシヒメシクイ カメムシ類	早 やや早	やや少 やや多
	ヒメトビウンカ	—	少	ブドウ	灰色かび病 べと病	やや早 やや早	並 並
	縞葉枯病	—	やや少				
	ツマグロヨコバイ	—	少	キュウリ等	灰色かび病	—	並
萎縮病	—	並					
	イネミズゾウムシ	やや早	並				
麦類	アブラムシ類 ヤノハモグリバエ	—	やや少	イチゴ	うどんこ病	—	やや多
		—	やや少	タマネギ	べと病	—	並
ジャガイモ	疫病	並	並	ナス等	ミナミキイロアザミ ウマ	—	並
モモ	灰星病	—	並	アブラナ科 野菜	アブラムシ類 コナガ	やや遅 並	並 やや多
	黒星病	やや早	並				
	せん孔細菌病	—	多	キク	アブラムシ類	やや遅	並
褐さび病	やや早	並					
	モモハモグリガ	—	やや少				
	ウメシロカイガラムシ	早	並				

1. 普通作物

(水 稻)

(1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発 生 量 **やや多**

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年よりやや多であったことから、種
籾の伝染源量は平年よりやや多いと考えられる。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高
く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件とな
る。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発 生 量	ヒメトビウンカ (第1世代幼虫)	少
	縞葉枯病	やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は0頭
で平年(97.8頭)より少なかった。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発 生 量	ツマグロヨコバイ (第1世代幼虫)	少
	萎縮病	並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は2頭
で平年(29.0頭)より少なかった。

イ. 萎縮病は近年ほとんど発生が認められない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期	やや早	発 生 量	並
------	------------	-------	---

予報の根拠

ア. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高
いとされており、越冬成虫の本田への飛込み時期は平年よりやや早い
と考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

(麦 類)

(1) アブラムシ類

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

ア. 4月25日の巡回調査によると、発生圃場率は13.0%で平年(80.9
%)よりやや低く、発生程度は軽微であった。

(2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

ア. 4月25日の巡回調査によると、発生圃場率は4.3%で平年(15.6
%)よりやや低かった。

防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギが多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作と

したり、コムギに転換する。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年よりやや遅れている。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

2. 果 樹

(モモ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査では、花腐れの発生圃場率は28.6%で平年(21.1%)よりやや多かった。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育はやや早めに推移している。

イ. 4月18日の巡回調査(越冬病斑調査)によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査(春型枝病斑調査)によると、発生圃場率は50.0%で平年(0%)より高かった。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 植物防疫情報第1号(4月6日発表)「今がモモせん孔細菌病の防除適期です!」、病害虫発生予察注意報第1号(4月19日発表)参照。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育はやや早めに推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月18日の巡回調査(南部)では、発生圃場率は0%で平年(5.7%)より低かった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～4半旬までの誘殺数は0頭で、平年(6.0頭)より少なかった。

ウ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市農業研究所内の気温を用いた予測式から、幼虫ふ化開始日は4月23日頃(平年5月5日)、幼虫ふ化最盛日(防除適期)は4月27日頃(平年5月8日)と推定された。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 早 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月3日であり、平年(4月11日)より早かった。

イ. 4月1～4半旬の誘殺数は12頭で平年(21.5頭)よりやや少なかった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 やや早 発生量 やや多

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、チャバネアオカメムシが796.9頭(平年402.7頭)で平年より多く、クサギカメムシが40.0頭(平年16.8頭)で平年よりやや多いと予測される。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや早めに推移している。

イ. 4月26日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育はやや早めに推移している。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. ブドウべと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤）に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤と組み合わせて使用する。

イ. ベと病菌は被害葉で越冬し、翌年5月以降、降雨時に葉裏の気孔から侵入して5月下旬頃から葉に発病することから、前年の被害葉は圃場外に持ち出して処分し、伝染源の除去に努める。

3. 野菜

（キュウリ、ナス、トマト、イチゴ）

（1）灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月20、23日の巡回調査によると、発生圃場率は、トマトでは75.0%（平年58.2%）、イチゴでは50.0%（平年30.9%）といずれも平年より高かった。キュウリ（平年0%）とナス（平年26.5%：10年間で3年のみ発生）では発生を認めず、平年並であった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

（イチゴ）

（1）うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月20、23日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年（11.4%）より高かった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

（タマネギ）

（1）べと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年（46.2%）並であったが、発病程度は47.5で平年（18.7）より高かった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

（ナス、キュウリ）

（1）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月20、23日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は

平年よりやや少なかった。

イ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

（アブラナ科野菜）

（1）アブラムシ類

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は106頭で、平年（247.6頭）より少なかった。

イ. 4月20日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年（発生圃場率：5.0%）より少なかった。

ウ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

（2）コナガ

予報内容

発生時期 並 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は、78頭で、平年（21.7頭）より多かった。

イ. 4月20日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年（発生圃場率：2.3%）より少なかった。

ウ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

4. 花き類

（キク）

（1）アブラムシ類

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は106頭で、平年（247.6頭）より少なかった。

イ. 4月23日の巡回調査によると、発生を認めず、平年より少なかった。

ウ. 4月26日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

